



16番ホール 宮本卓 撮影

その 275

クローズアップ21

40年振り2度目の日本女子OP開催 芦原ゴルフクラブ

女子OP開催へ18年冬からコース改造、海コースを1グリーンに

開場60周年記念コース改修祝詞奏上式の様子



1961年6月13日に開場した芦原ゴルフクラブ（36H、福井県あわら市）は、シーサイド特有の松林に囲まれた越前海岸国定公園内にあり、今年の日女子オープンゴルフ選手権の舞台となった『海コース』（18H）と静かに光る北潟湖に面した『湖コース』（18H）を持つメンバーシップコースだ。コース設計は昆虫学者・農学博士で芝生の研究を契機に、約30のゴルフ場設計を手掛けた丸毛信勝氏で、工事は(株)熊谷組が行っている。また、2021年に60周年を迎え、「開場60周年記念コース改修祝詞

宮北勝栄取締役支配人



奏上式典」や「開場60周年記念コンペ」を開いた。施設改修においては、海コース18Hのグリーンを全て2グリーンから1グリーンに改造したことや、会議室などの新設やクラブハウス内のフロアマットの全面入替、海コース1番ホール売店の改装など多くの費用をかけたそうだ。

ゴルフ場のメンバー数は1385人でメンバーの平均年齢は60・1歳。会員権は株主会員制で、23年日本女子OPの反響もあり、入会数も増えたという。22年度の来場者数は4万2075人。来場者比率は、女性来場者比率が約11・5%、県内が86・2%となっている。

イベント・ゴルフ競技、日本女子オープン、緑化事業などの取り

組みなどについて小林茂専務総支配人、宮北勝栄取締役支配人からお話を聞いたので紹介していきたい。

ピンクリボンチャリティ、アマチュアゴルフ選手権などイベントや競技を多数実施

芦原GCでは、ピンクリボンチャリティゴルフコンペや福井県アマチュアゴルフ選手権など多くのイベントや競技を行っている。宮北支配人は同GCでのイベントやゴルフ競技実施について次のように話した。

「『ピンクリボンチャリティゴルフコンペ』は、福井のマスコミと共催で、例年10月のピンクリボン月間に合わせてやっていたいています。県内の試合は毎年福井県



内『ピンクリボンチャリティゴルフコンペ』の案

芦原ジュニア育成委員会を中心にジュニアゴルフにも取り組む



アマチュアの予選と決勝を行っていますし、中部の試合も毎年1回あります。ゴルフ競技については、おそらく県内で一番多いゴルフ場だと思えます。ジュニアについては、

20年程前に立ち上げた「芦原ジュニア育成委員会」を中心に毎年5月5日に「福井県ジュニアオープン」、11月3日には「芦原学生ジュニアオープン」を開催します。これからもゴルフ人口の底辺拡大に向けてやり方を考えていきたいです」（宮北支配人）

あわら市では年に2回、あ

わら市民ゴルフ大会を開催。県内の主要ゴルフ競技を運営する「福井県ゴルフ協会」は1994年6月に設立。事務所は芦原GC内が協会事務所となっている。その他、女性ゴルフアークがゴルフを始めるきっかけに、4〜5年前から『レディースレッスン会』を毎月第1・第3日曜日に参加費2000円でビギナーを中心に実施。アプローチやパター、打撃練習などレッスンプロから指導を受け、2〜3ホール回ってお茶を飲んで帰るといった内容だ。今ではレッスン会に50人が登録しているという。

40年振り2度目の日本女子OP開催、18年冬からコース改造

芦原GCは、今年9月28日〜10月1日に40年振り2度目となる『第56回日本女子オープンゴルフ選手権』を海コース（18H、6528ヤード、パー72）で開催。大会は原英莉花選手が通算15アンダーで20年大会以来2回目の優勝を果たした。開催経緯について小林総支配人よりお話を伺った。

「金沢まで新幹線が開通した2015年に片山津GCで日本女子オープンが開かれました。その翌年

に社長から「芦原ゴルフクラブも女子オープンをやろう」と言われ、16年3月に中部ゴルフ連盟の競技委員長を通じてJGAに女子オープン開催希望を要請し、6月にも芦原GCからJGA本部長宛てに文書で直接要請しました。6月23日に、JGAチーフトーナメントディレクターと事務局の方が視察に来られて、開催の条件の話を聞きました。17年3月にもJGAゼネラルプロデューサーら5〜6名が視察に来ていただき、改善計画書を元に打ち合わせを行いました。そして、18年6月6日のJGA理事会で「第56回日本女子オープンゴルフ選手権」の開催が決定しました。コース改修においては、18年冬から本格的に改造工事に着手しました。JGAにグリーンの改造図面を描ける人物を紹介していただき、描いてもらった図面に従って改修しました。JGAからは「松が多すぎて、ギャラリが観戦する場所が無い」との要望もありましたので、約5年をかけて何とか大会に間に合わせました。今年の春には、約1万㎡の芝を張りました」



40年振りに芦原GCで開かれた日本女子OPには2万5765人の来場者が集まった（写真提供：JGA）

日本女子OPに向けてのコース改修やコースセッティングについて

同GC管理グループに所属する宮下剛管理部長、西峰健一グリーンキーパーから大会に向けてのコース改修や今大会のコースセッティングについて話を聞いた。

海コースのアウトコースとインコースの入れ替えと2グリーンから1グリーンへの改修については、21年の60周年記念コンペを行う時にはほぼ完了したという。

「まず大きな改修として、201

9年より、開催する海コースの18Hを2グリーンから1グリーンに変え始めました。それから、松くい虫による被害は自分達で管理している区域だけで年間1500本くらい枯れるほど甚大です。毎年枯松を伐採しては市の許可をいただいで焼却していました。それに加えて雑木は間伐させてもらいましたので、今は海の景色がはつきり見える景観になりました」（宮下管理部長）

今大会のコースセッティングについて、西峰グリーンキーパーは次のように語った。

「コンパクションについて、当初JGAから23く24、グリーンスピードは11く12で要求されました。雨や残暑の影響で思うようなコンディションが出来なかったため、コンパクション21・5、グリーンスピードは10・5で推移してセッティングをしていきましたが、運営的には問題はなかったです。刈高については、グリーンが3・4mmのダブルカットで仕上げました。FWは10mm、ラフはJGAからの要求が100mmでしたので、最終的には100く130mmまで伸ばしました。大会2週間前に2く3

日間かけて76mmで刈り揃えたんですけど、そのまま2週間ほど伸ばしましたので、気温の高さや9月に撒いた肥料が効いた影響もあり、長いところは150mmまで伸びたところもあります」（西峰グリーンキーパー）

芝の刈込は今年の春先から取り組み、残暑でも短い刈高で仕上げることができたという。鳥獣害被害については、大会1日目の夕方にゴルフ場のゲートを閉めに行く際に大きなイノシシが出現したが、無事に侵入を免れた。

大会期間のコース管理スタッフについては、芦原GCで刈込ができるスタッフがメカニックを合わせて13人のため、近隣ゴルフ場などに協力をお願いした。機械のセッティング技術者にも来てもらい、綺麗に刈ることができたという。バンカーは、ホウキによる手作業で均した。

西峰キーパーは「日本女子オープンのトーナメントコース管理では色々良い経験をさせていただきました。今後も期待を裏切らないコンディションにできるようにしていきたいです」と今後の意気込みを語った。

2006年頃から緑化事業を開始、あわら市と激甚災害支援の協定も

同クラブでは、緑化事業をはじめとしたSDGsに積極的な取り組みを行っている。小林総支配人は緑化事業について次のように語った。

「2006く2007年頃からコース内の松があまりにも枯れるので、伐採をかけたらコースの中にあつた松がほとんど無くなってしまいました。グリーン委員会が枯れの原因となるマツノザイセンチュウに抵抗性のある松の苗を買

私たちは環境保全に取り組んでいます！
ランドリー袋の削減にご協力をお願いいたします。
芦原ゴルフクラブのランドリー袋を環境にやさしい
バイオマス配合ポリ袋に変更しました
植物由来の原料を配合することにより、高品質の袋とCO2削減に貢献しています。

バイオマス
プラスチック
30%

変わらない袋の作り、
変わらぬ緑のゴルフ場
SDGs宣言
芦原ゴルフクラブ

芦原GCのSDGs宣言

つてきて植林をして増やしまして、うという話から緑化事業を始めたのがきっかけです。最初の5年はコース中に松を植えました。70〜80cmぐらいの大きさの苗にした方が活着が良かったため、畑に2〜3年置いてからコース内に植えていきました。近年は主に松の下枝打ちと松・雑木の間伐を重点に続けています。緑化事業は、4月と9月の月例を行う最終日曜日の午後8月の月例の際に張芝をした所の草が多いため、主に草むしりをしてもらいました。今では1回の参加でメンバーを中心に40〜50人に増え、コース内の松の下枝が整理



緑化事業は4・9月の月例を開催した時に40〜50人のボランティアで活動する

され見晴らしも良くなりました。この人数で枝打ちした枝は2tダンプ5台でも追いつかないぐらいの量が採れますのでありがたい話です」

緑化事業で伐採した松は森林組合に引き取ってもらい、チップに加工してバイオマス燃料としています。22年の春先には、クラブハウス、売店、コース管理棟を含む全施設をLEDに変換しました。また、20年6月30日にあわら市の4つのゴルフ場で協力し、あわら市役所と『激甚災害支援協力に関する協定』を締結した。この協定は、大規模な地震や津波が発生した際、近隣住民の避難者の収容、飲料水

や浴場の提供に協力するということの。その際に若原GCからあわら市内の各ゴルフ場に呼びかけをして「あわら市ゴルフ場協議会」を発足した。

ふるさと納税返礼品で「ゴルフ割引」

ふるさと納税について宮北支配人にお話を聞いた。

「ふるさと納税は、昨年から独自で始めました。初めは1年に2〜3件しかなかったのですが、あわら市でも4つのゴルフ場で使える、1万円買ったら3000円分（5万円・1万5000分、10万円・3万円分）のクーポンを出すふるさと納税を始めて多少なりとも人気が出てきたのかなと思います。女子オープンが終わった後に、1週間で5件ほど入ってきました。ふるさと納税は今から伸びてくる気がします」（宮北支配人）

ふるさと納税の申込みは、仲介サイトの「ふるさとチョイス」でも可能。

最後に、小林総支配人、宮北支配人から今後の抱負を述べた。「日本女子オープンが終わって、これだけ県内外から注目されてい

るので、かなりプレーのエントリーが入ってきています。海コースの方はまだまだ改良する余地があるので、お客様の要望に沿うようなコース改修などを行っていきたいと思います」（小林総支配人）

「北陸新幹線が来年3月に福井県まで伸びますので、色々と女子オープンでアピールできた部分から本当に来てもらうまでの旅行会社との仕組みを作っていきたいと思っています。首都圏から実際に来てもらうのでいいですけど、もう少しアピールできるように連携をしっかりとっていききたいです」（宮北支配人）



17番ホール（宮本卓 撮影）